

南の風 397

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

Aチームのベンチ対応についてです。

結論から書きます。1点差でのタイムアウトでは遅いと思います。根拠は7点差のリードの後、2度立て続けにパスカットから得点されていることです。いずれもAチームのガードがパスカットされているのです。浮足立っている証拠です。ここは3点差で一度流れを切るべきだと思います。

さらに深読みすれば、自チーム（Aチーム）が7点リードした場面で相手がタイムアウトを取ったわけですから、当然オールコートプレスを仕掛けてくることは予測できたと思います。もちろんAチームのベンチはプレス対応の指示を出したのかもしれませんが。（指示内容は分かりません）

プレスの運びの具体的な指示を徹底すべきでした。それでもプレスに掛かってしまったのであれば、5点差になった瞬間に取るのもありだと思います。細かく具体的に運びと攻め方の指示を出すべきです。

繰り返しますが、あの時点（1点差）でのタイムアウトは、遅きに失した感があります。ゲームの流れを止められる状況ではなかったように思います。

タイムアウトについてです。ミニバスや中学生の試合では、経験の少ない選手が多いのですからリスクに対する処置は遅くならないことが基本になります。相手がプレスディフェンスで圧力を掛けてきた時など、一気に流れが変わることはよくあります。ただ、選手に考えさせ自分たちの力で乗り越えさせようとする意図がある場合は、タイムアウトを取らずにゲームの推移を見守ることもあるとは思いますが。

よく指導者間で、タイムアウトのタイミングについて議論になることがあります。「遅すぎたのでは」「ちょっと早すぎるよ」などです。私は、リスクやゲームの流れ、選手のその場面での状況、目指す大会なのかなどを考慮して、最終的にそのチームのヘッドコーチが決断すべきだと思います。

もう一つベンチワークの大事な点として、コーチは「自身でコントロールできないことにフォーカスしない」ということです。自分ではコントロールできないことは、次のような事柄です。

- (1)レフリー、アンパイヤの笛
- (2)ゲームが始まってからの選手の調子
- (3)ボールのバウンド（どこへ転がっていくかなど）
- (4)シュートが決まるか外れるか

逆にコントロールできることとしては、

- ①ボールを必死に追いかけること。転がっているボールは取りに行かなければ取れない。
- ②シューターは調子が悪くても打ち続けなければならない。
- ③自分のやるべきことを集中してやり続けること
- ④勝つために全力でプレーすること

このように、コーチはコントロールできることと、できないことを分けて指揮を執る必要があります。コントロールできないことを考えたり、アピールしたりしても何も変わらないからです。

ここで『ベンチワーク』の定義をします。私の考えです。なぜ定義をするかということ、定義をすることによって、自分のコーチとしての行動の質を上げたいからです。

私は、「試合のあらゆる危機的な状況の中で、選手の精神状態を把握し、適切で具体的ななしかも即効性のある指示・指導を行うこと」と考えています。